



えいごしゃべれるの～

YMCA 英語幼児園訪問

ゆうあいの里



オジチャン
ナガイキシテ
クダサイネ!

寒い日と暖かい日が極端で、今年の冬は体調を崩される方が多かったのではないのでしょうか？とても寒かった2月14日(火)に広島YMCA英語幼児園の園児さんと交流会を行いました。広島市内からバスで一時間かけて遊びに来て下さった園児さん達はとても可愛らしく、入居者の皆さんの顔も笑顔であふれていました。

今回、来園して下さった園児さんは

5歳のお子さんで、なんと英語で唄を歌って下さり、入居者や職員より「英語で歌ってるよ～」「こんなにちっちゃいのになんか英語がわかるの～」などと、驚きの声が上がりました。それがまた上手で本当に感心してしまいました。その後、園児と入居者が一緒に壁飾りを作り、入居者の皆さんは喜んで居室に飾っておられました。また来年も遊びに来て下さいね 楽しみに待っています！（谷口 喜寿）



父に教えられたこと

訪問介護



父は今年88歳を迎え、久しぶりに子供が集まりささやかな米寿のお祝いを、錦帯橋が見えるホテルで行いました。母のそばで、赤いちゃんちゃんこを着た父は、いつの間にか小さく小さくなっており、昔の元気に働いていた頃がうそのように年を取っていました。

父は幼少の頃、母親と離れ離れで暮らし寂しい想いをしたぶん、私たちに子供には本当に優しい父でした。戦時中は3年間マレーシアで木造船を造る仕事に従事し、いまでも会話の中にマレー語がよく出ます。戦後は母と朝から暗くなるまで、わさび、こんにゃく、米、タバコの葉等農作業一本で頑張っていました。子供が大きくなるにつれ、収入のこともあり、大竹に一人出稼ぎに出ました。灯りの点いてないアパートと、会社を往復する毎日で寂しかったとあとで聞きました。

現在は、近くのデイサービスに毎日行かせて頂いています。そこでもご利用者さんが入られるお風呂に入浴剤を入れたり、昼に休まれる方のために布団を敷いたり、花壇を作ったりと毎日いきいきしています。

米寿のお祝いから自宅に戻り、母が「今日は、いい日でしたね」と言っても父の記憶には出かけたことすら残っていません。しかし、働くことが何よりも好きだった父は、私が仕事の帰りに寄ると、いつも「働きんさいよ、がんばるんよ」と声をかけてくれます。その言葉を励みに、父のように生涯生き生きと人生を送っていかれたらと思います。(上杉 裕子)

